

教員推薦図書 2023年12月

推薦教員	健康・スポーツ心理学科 教授 出雲 輝彦 先生	<p>【推薦コメント】</p> <p>2020年に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピック（東京2020大会）が、新型コロナウイルス感染症の影響により2021年に延期開催されたことは記憶に新しいことでしょうか。皆さんは、東京2020大会についてどのような印象をお持ちですか。同大会を巡って、様々な不正・不適切問題がありました。大会終了後も組織委員会の元理事が関わったとされる汚職事件や東京五輪招致時の推進本部長が官房機密費でIOC委員に贈答品を送っていた疑惑など、マイナスのオリンピック・レガシーの話が尽きません。</p> <p>そもそもオリンピックは、古代オリンピック（BC776-AD392）をヒントにして、フランス人のピエール・ド・クーベルタンの提唱により近代オリンピック（1896年：アテネ）として開催されたものが発端となっています。何故クーベルタンはオリンピックの復興を提唱したのでしょうか。彼は「スポーツ（教育）を通じた世界平和の確立」を近代オリンピックによって目指そうとしたのです。そして、スポーツの教育的価値に気づかされたのが、イギリスのパブリックスクールにおけるスポーツ（教育）だったのです。クーベルタンはトマス・ヒューズ著「トム・ブラウンの学校生活」を読み、フランスの学校にはない生き生きとしたイギリスの教育に関心を持ち、実際にイギリスのパブリックスクールのラグビー校などに視察に訪れ、その確信を深めたのです。オリンピックと教育が結び付けられる所以はここにあります。</p> <p>ところが、現代のオリンピックについては、表向きはそうであっても、実際のオリンピックは「お金を生み出す制御不能の装置」に変容しています。オリンピックで経済波及効果が期待できるのなら構わないじゃないか…という考えもあるかもしれません。しかしながら、美味しい汁を吸おうとする輩が群がってくるのです。彼らは、節操がなく、がめつく、えげつない奴らです。</p> <p>したがって、奴らに抗するためには「オリンピック」や「スポーツ」について正しく理解し、撃退する武器（知識）を持つ必要があります。クーベルタンが憧れたパブリックスクールにおける主人公トム・ブラウンはどのような学校生活を過ごしたのか、気になりますか？</p> <p>難所は最初に訪れます。数十ページ我慢すれば…</p>
書名	トム・ブラウンの 学校生活 上, 下巻	
著者名	トマス・ヒューズ 著 前川 俊一 訳	
出版社	岩波書店	
請求記号	933 / Hus / 1, 2	
資料ID	901126207 901126206	